

平成 26 年度岡崎市水循環推進協議会 会議録

1 日時

平成 26 年 8 月 7 日（木） 午後 2 時～午後 3 時 30 分

2 場所

岡崎市役所福社会館 3 階 視聴覚室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員

富永晃宏、井上隆信、蔵治光一郎、丸山泰男、長谷川明子、天野博、黄木勝敏、眞木宏哉代理木俣弘仁、大島康司、松田直人、延地曠行、檀広実、中根久雄、山口晴江、西原均、白村暁

(2) 欠席委員

長井正博

4 事務局職員の職氏名

環境部長 山田康生、環境部次長 柴田和幸、環境総務課長 柴田耕平、環境保全課長 中根靖夫、環境総務課副主幹 岡田武士、環境保全課副主幹 蜂須賀功、環境保全課主査 森本徳恵

5 議題等

(1) 岡崎市水循環推進協議会について

(2) 平成 25 年度の水環境創造プランの進捗状況について

6 議事の要旨

(1) 会長の互選、会長代理の指名

引き続き富永委員を会長に選任、丸山委員を会長代理に指名

(2) 議事 1 水循環推進協議会について

■資料 1 に基づき説明（事務局）

■質疑、応答

・年に 1 回の協議会では議論ができないのではないか。（檀委員）

→第 19 条に会長は必要に応じて、協議会に部会を置くことができるとあるため、議論すべき内容があれば、部会を設置すればいい。（蔵治委員）

(3) 議事 2 平成 25 年度の水環境創造プランの進捗状況について

■資料 2 に基づき説明（事務局）

■質疑、応答

- ・代掻き調査：SS、COD とは何か。(山口委員)
 - SS は浮遊物質量 (※)、COD は化学的酸素要求量で有機物の汚れを表す。(事務局)
 - SS は 2 mm 以下の浮遊物質量である。(延地委員)
 - SS は 2 mm 以下ではなく全量の浮遊物質量である。(丸山委員)
- ・乙川の水質結果は浄水場の取水口で測っていないのか。代掻き時に影響は今まであったのか。(中根委員)
 - 男川浄水場の取水口で毎日測定を行っている。乙川では代掻き時の特有の影響はあまりない。(事務局)
- ※岡崎市総合検査センターにおいて、環境省告示付表 9 の方法で測定を行ったもの。ここでいう SS は 2 mm 以下の浮遊物質量である。

- ・緑化の推進：植えられている木はどういう種類か。外来のものでは困る。(長谷川委員)
 - 土日も利用できる盆栽などの講習会をやる会場がない。(丸山委員)
 - 老木の管理、桜の管理 (青森県弘前市を手本に) (天野委員)
 - 担当課に伝える。(事務局)

- ・外来種の駆除：在来種は実際にいたのか。池に戻したのか。(丸山委員)
 - 手元に資料がないが、今後在来種復活作戦として行う。(事務局)

- ・水源林の間伐対策事業：手入れが行き届いてない面積はどのくらいか。(延地委員)
 - 森林ビジョンで 400ha/年で間伐を目標にしている。今すぐに手入れを行わなければならない面積は 12,000ha であり 30 年かかる。1 度間伐を行ったところも 30 年経つと、また間伐をしなければならなくなる。また、岡崎市単独の補助がない。今年度から岡崎市単独補助として作業道の補助が始まった。さらに間伐が進むようにしなければならない。(木俣委員)

- ・環境教育：自然体験の森などの施設を生かし、小中学生、市民を巻き込んだ環境啓発をもっと活発に行ってほしい。(檀委員)

- ・農地造成：田→畑が多い。田は一時的に大雨時に水を蓄えることができる。行政として把握する必要があるのではないか。(木俣委員)
 - 宅地造成とは違うため、現行の法律ではコントロールするのが難しい。(事務局)
 - 流域治水という考え方だと思う。兵庫県や滋賀県では水田の保水力が対象の条例ができています。この水田の保水力のことを「田んぼダム」などと表現することもある。岡崎市においても水害防備に対して、一秒でも長く流域全体で雨を留めるという考え方に基づいた新しい条例が必要である。(蔵治委員)
 - 土木としての治水は進んでいるが、細かい対策がなかなか進んでいないため今後の検討課題である。(事務局)

→額田地域では乙川の氾濫は今までなかったが、ここ2, 3年続いている。新東名の残土処理で檜山地域など埋め立てられているが、どういうところが埋まっているか把握をしてもらいたい。(木俣委員)

→資料の整理などを行い検討させていただく。(事務局)

・多自然川づくり：住民側は何をやっているのかわからないことが多々ある。土砂がたまったり、草が繁茂したりすることがトラブルのもとになりかねない。住民へ将来にわたる維持管理方法を周知したほうがいい。(長谷川委員)

・全体について：重点施策の評価について、○×ではなく、当初の計画以上のことができたのか、目標に達しなかったのかなど、もう少しわかりやすい評価をしてほしい。項目によると思うが、まず市としてどのように評価しているかを記載してほしい。(井上委員)

→評価の仕方が難しいが、検討したい。(事務局)

・合流式下水道改善事業：達成率が100%となっているが、H26年度以降の重点施策も同様の名前となっている。これはどういうことか。(中根委員)

→合流式下水道の雨天時の未処理水の放流に対し、緊急的に行う対策を10か年計画で行った最終年度がH25年度であり、計画の達成率として100%となっている。一方、合流式下水道は古くからの下水道で市街地に多くあり、分流式下水道に随時更新をしているが、全てを更新するには年月がかかるため、H26年度以降も合流式下水道改善事業として継続していく。(事務局)

7 その他

施策 5-6 環境美化・保全団体の活動支援についての現地視察（北山湿地）

案内 おかざき湿地保護の会 小玉会長